担当課長名: 増田 博行

事業の概要

事業名	地域高規格道路 旭川十勝道路 主要地方道鷹栖東神楽線 旭川東神楽道路	事業 地方道	事業 主体	北海道
起終点	自:北海道旭川市東旭川町上兵村 主:北海道旭川市東旭川町上兵村 至:北海道上川郡東神楽町東神楽		延長	10.1km

事業概要

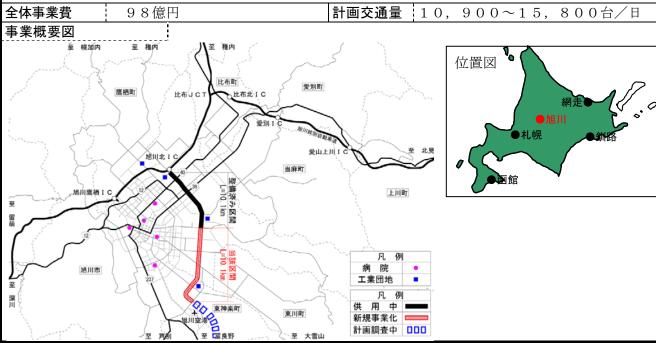
旭川十勝道路は、北海道縦貫自動車道(旭川北IC)と北海道横断自動車道(占冠IC)を結ぶ延長120 kmの地域高規格道路。旭川東神楽道路は旭川十勝道路の一部をなし、現在整備が進められている富良野北道路や富良野道路とともに広域ネットワークを形成するほか、旭川市の環状道路機能も有しており、地域の活性化に寄与する道路。

事業の目的、必要性

旭川東神楽道路は、

- ・旭川北インター、旭川空港、工業団地、旭山動物園などのアクセス向上
- ・旭川市街及び東神楽町の交通渋滞の緩和ならびに交通事事故の軽減

に資する道路である。



関係する地方公共団体等の意見

地域の主要幹線道路として重要な役割を果たす事が期待されており、旭川市・東神楽町より早期整備を要望されている。

学識経験者等第三者委員会の意見

北海道公共事業(大規模等)事前評価審議で新規事業化は妥当である。

事業採択の前提条件

費用対便益:便益が費用を上回っている。

手続き:都市計画の告示・縦覧、環境影響評価書の告示・縦覧が完了。

地元自治体から早期整備要望を受けており、円滑な事業執行が可能な環境が整っている。

事業評価結果

争未	р г јуши	'u /~									
費用	B/C		2. 8		総費用 80億 事業費: 維持管理費	76億円	(走行 走行	費用減少便益:	181億円 31億円 9億円	基準年 平成24年	
費用対便益				量変動	B/C=3. 5		1	事故減少便益: B/C=2.7		通量-10%)	
	感度分析の結果				B/C=2. 5	(事業費+10%		B/C=3. 1		養費 -10%)	
			+		B/C= 2. 5 (事業期間 + 2 0 %) B/C= 2. 9 (事業期間 - 2 0 %)					英期間 -20%)	
事	評価項目		評価				根拠				
事業の影響	自動車	渋滞対策	0	散に。 【渋泡 旭月 【その	旭川市街地を迂回する環状道路の一部であり、通過交通の排除や流入交通の分散により、市街地部の渋滞緩和が見込まれる。 【渋滞損失時間の改善】 旭川都市圏:現状 約1,181万人時間/年→約1,122万人時間/年) 【その他の特徴】 主要渋滞箇所の改善 交通容量の確保による混雑区間の緩和						
	車や歩行者への影響	事故対策	0	東神楽町市街地の通過交通の排除や流入交通の分散により、通過交通等に起因する交通事故の減少が見込まれる。 【安全性の向上(事故の減少)】 ・現況死傷交通事故率 970 件/億台キロ(最大値) (その他 100 件/億台キロを超える交差点…6 箇所) ※道内平均死傷事故率 31 件/億台キロの約 31 倍							
		歩行空間	0	歩道が未設置の区間や狭小な区間に歩道が設置される。 旭川小学校、旭川第2小学校の通学路(片側歩道⇒両側歩道) 一部バイパス化により通学の安全性が向上する。 東神楽小学校の通学路 歩行者数285人							
	社会全体への影響	住民生活	0	院、	旭川厚生病	機関(旭川赤院)への時間 院)への時間 性向上に寄与	豆縮に寄		汝 急医療	機関(市立旭川病	
		地域経済	0	・北海道縦貫自動車道旭川北ICと旭川空港のアクセス性向上。 ・沿線に立地する工業団地のアクセス向上。						Ł.	
		災害	0	・第二次緊急輸送道路として緊急支援物資の円滑な輸送を支援。							
		環 境	_								
		地域社会	0		な観光地であ セス向上。	る旭山動物園	(H22 年	度の年間入込	入観光客·	数 200 万人)への	
事業実施環境			0	平成24年6月都市計画決定済み。 上川中部圏地方拠点都市地域基本計画、旭川市都市計画マスタープランにおいて位置づけあり。							

採択の理由

事業主体である北海道が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が2.8と便益が費用を上回っており、 事業採択の前提条件が確認できる。

また、高速道路と空港のアクセスを強化、物流や観光を支援、市街地部の渋滞緩和等、当該事業の整備の 必要性・社会全体の効果は高いと判断される。

以上により、本事業は平成25年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額と割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの